

# アジア都市文化学専攻とは？ その魅力って？

アジア都市文化学専攻は学部に対応するコースがなく、大学院のみの専攻となっています。そのため、院生はさまざまな大学や学部、専門領域から集まってきており、多彩な背景をもった院生たちが相互に交流することで幅広い知見に触れることとなります。院生の関心や対象は幅広く、また国外のフィールドワークを行う院生も多数にのぼります。さらにアジア各国の留学生も多数在籍し、日々の勉強がそのまま文化交流となつているのも専攻の特徴です。アジアの諸都市とその文化に関する諸問題について、幅広い視点からアプローチすることが可能なのがアジア都市文化学の魅力といえるでしょう。

## 文 アジア都市文化学専攻 Asian Culture and Urbanism

大学院



准教授  
増田 聡  
【ますださとし】  
先生



### 先生ご自身の専攻とそのやりがいとは？

アジア都市文化とは非常に漠然とした学問ですが、「アジア」「都市」「文化」に関連する事象を広く取り扱う分野です。私個人は現代ポピュラー音楽の研究が専門です。アカデミックな音楽研究の関心がクラシック音楽に向いている一方、大衆に親しまれている音楽への学問的関心が低いというズレがこの分野を選んだきっかけでした。音楽そのものよりも、音楽と社会の関係の諸事情を研究しています。最近では音楽の盗作、「パクリ」問題に関心をもち、「出版物のゴーストライターは容認されるのか」、偽作曲家は批判されるのか」といった問題について考えています。

先生  
おススメの本

岸田秀  
『ものぐさ精神分析』  
青土社 / 中公文庫

古い本ですが今でも新鮮です。「世の中の制度や決まりはすべて幻想である」というむちゃくちゃな言い、とあなたは思うでしょう。でも私たちの社会の仕組みは、想像以上に不安定な足場の上にあるのかもしれません。文学部とはその「社会の不安定さ」について真面目に考えるとこころです。

### アジア都市文化学専攻に

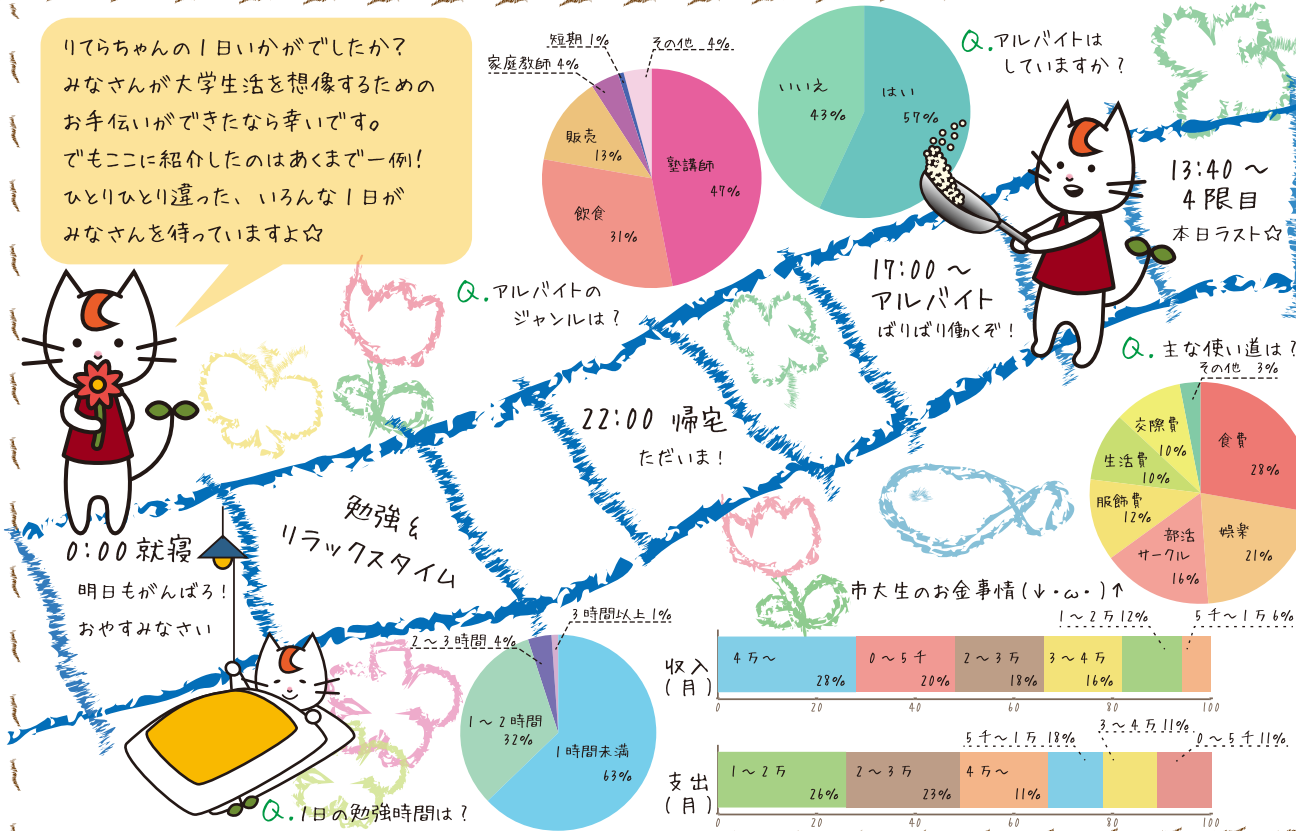
とつての【旅】とは？

私個人はほとんど旅はしません（毎日の仕事で忙しすぎるからです）。しかし業務上の出張で東京に行ったり、あるいは他大学の授業のために日常的に京都や神戸に通っています。また、実家が九州にあるので、毎年お盆や正月には家族と一緒にクルマで帰省するのが通例です。これらの移動は「旅」なのでしょうか？もし「旅」でないとするならば出張や帰省と「旅」とを区別しているものは何なのでしょう？文化を研究するためには、ある言葉で指し示される対象や行為について考えるだけではなく、その言葉（この場合は「旅」）がどのような仕方を用いられているのか、について多面的に問う姿勢が必要となります。「旅」は単なる移動とどのように異なるか、その異なるのはいつでも、どこでも、どのような人々の間でも当てはまる異なるものなのか、自分が持つのと異なる「旅」の概念が存在するとすればそれはなぜなのか、そのような瑣末に思える問いを考え抜くことから文化の研究は始まるのです。

文・増田先生

## 文学部生 りてらちゃんの日

続いて、りてら先輩の午後をのぞいてみましょう！



その2